

エクアドル フザリウム菌に耐性のあるバナナ新品種が到着

[FreshPlaza 2024年4月17日](#)

エクアドルは、4月18日(木)にフザリウム菌熱帯レース4(FOC TR4: *Fusarium oxysporum* f. sp. cubense tropical race 4 以下「TR4」)に抵抗性のある2つめのバナナ品種を受け取る。GALとして知られるこのバナナ品種は、イスラエルのラハンメシステム社によって配布されている。この輸入は、農牧省、農産品質保証庁(Agrocalidad)、国立農牧研究所(INIAP)及びラハンメシステム社の努力の賜物であり、エクアドル・バナナ・プランティン・クラスター(バナナの生産者と輸出業者の団体)によって発表された。エクアドルは、確立されたバイオセーフティプロトコルに従って試験を開始する。

この取組みは、TR4から全国のバナナ生産の持続可能性を守るという関係当局と民間部門の約束に対応するものである。この品種は、この真菌がもたらすリスクを避けるために栽培の選択肢を多様化するこの部門の取り組みの一環として、同国が輸入する2つめのTR4抵抗性品種である。1つめの品種は、2022年4月に輸入されたフォルモサナ218である。フザリウム菌レース1によるゴルスミシェル品種の消滅後、エクアドルの主な輸出品種はキャベンディッシュ(TR4に抵抗性がない)であり、同国はコロンビア、ペルー、ベネズエラなどの近隣諸国で既に検出されているTR4の脅威に直面している。

フォルモサナ品種の試験は継続されており、最終結果は2025年までに出版される予定である。エクアドル・バナナ輸出業者協会(AEBE)の執行役員であるホセ・アントニオ・イダルゴ氏は、試験はすでに商業段階にあり、管理の下で配布するための暫定的な許可が下りていると述べた。GAL品種を用いたプロセスには、最大24カ月の試験が必要になる可能性がある。さらに、TR4抵抗性品種と遺伝子工学の利用に関する分析について議論するためのバーチャル会議が開始された。

出典: eluniverso.com

(関連記事) 課題に立ち向かうバナナ産業の未来

[FreshPlaza 2024年4月17日](#)

カリウムの重要な供給源であるバナナは、自身の生分解性パッケージ(バナナの皮)に包まれているため便利で、米国で広く消費されている果実である。それはアメリカの食生活において重要な役割を果たしており、その消費量は生鮮果実の総摂取量の20%を超え、1人当たり年間消費量は過去50年間で92ポンド(約42kg)から136ポンド(約62kg)に拡大した。このような多様性と消費量の増加にもかかわらず、バナナは人気のある選択肢としての地位を維持している。

しかし、120億ドルの価値があり、100カ国以上にデザートバナナを供給し、発展途上国にとって重要な調理用バナナやプランティンも供給している世界のバナナ産業は、フザリウム菌熱帯レース4(TR4)の重大な脅威に直面している。畑でバナナを栽培できなくなってしまうこの土壌伝染性の真菌株は、封じ込めの努力にもかかわらず徐々に世界中に広がっている。この課題には前例があり、20世紀初頭にはパナマ病による同様の脅威に遭遇し、バナナは壊滅的な打撃を受けた。

バナナの将来については、科学の進歩と合理的なアプローチが消費者教育とマーケティング戦略に浸透する可能性を踏まえ、楽観主義的なシナリオが示されている。バナナ産業が地域的にも世界的にも直面している現在の脅威は、同セクターの大幅な強化を促し、セクター内の多様性を増進する可能性がある。パナマ病やブラックシガトカ病などに抵抗性のあるバナナ品種の開発は、生産者にとって優先課題である。さらに、褐変しない性質を導入することで、流通過程及び家庭での食品廃棄物を最小限に抑えることができる。

出典: forbes.com